

2008 年 12 月号 目次

【トピックス】

輸入豚肉中の動物用医薬品検査	1
平成 20 年度 屋内プールの水質実態調査	2

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 11 月	3
感染症発生動向調査における病原体検査 11 月	6

【検査結果】

由来別病原菌検出状況 11 月	7
---------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所 WEB ページ情報 (20 年度 11 月分)	8
---	---

輸入豚肉中の動物用医薬品検査

平成20年9月30日に食品専門監視班が収去した、市内に流通する輸入豚肉の筋肉10件について、動物用医薬品の合成抗菌剤28項目及び内寄生虫用剤1項目の検査を行いました。また、この豚肉の脂肪10件について、内寄生虫用剤3項目の検査を行いました。その結果、いずれの項目も不検出でした。

表 豚肉中の動物用医薬品検査結果

検査項目名	件数	検出件数	検出限界	検査結果	基準値
豚肉(筋肉)					
【合成抗菌剤】					
エンロフロキサシン(シプロフロキサシンを含む)	10	0	0.005	N.D.	0.05 以下
オキシリニック酸	10	0	0.01	N.D.	1 以下
オフロキサシン	10	0	0.01	N.D.	含有しないこと
オルビフロキサシン	10	0	0.01	N.D.	0.02 以下
オルメトプリム	10	0	0.02	N.D.	0.05 以下
クロピドール	10	0	0.01	N.D.	0.2 以下
サラフロキサシン	10	0	0.01	N.D.	含有しないこと
ジフロキサシン	10	0	0.01	N.D.	0.02 以下
スルファキノキサリン	10	0	0.01	N.D.	含有しないこと
スルファジアジン	10	0	0.01	N.D.	0.1 以下
スルファジミジン	10	0	0.01	N.D.	0.10 以下
スルファジメトキシ	10	0	0.01	N.D.	0.2 以下
スルファドキシ	10	0	0.01	N.D.	0.1 以下
スルファピリジン	10	0	0.01	N.D.	0.1 以下
スルファメキサゾール	10	0	0.01	N.D.	0.02 以下
スルファメキシピリダジン	10	0	0.01	N.D.	0.03 以下
スルファメラジン	10	0	0.01	N.D.	0.1 以下
スルファモノメトキシ	10	0	0.01	N.D.	0.02 以下
ダノフロキサシン	10	0	0.01	N.D.	0.10 以下
チアンフェニコール	10	0	0.01	N.D.	0.02 以下
トリメプリム	10	0	0.02	N.D.	0.1 以下
ナリジクス酸	10	0	0.01	N.D.	含有しないこと
ノルフロキサシン	10	0	0.01	N.D.	0.02 以下
ピリメタミン	10	0	0.02	N.D.	0.05 以下
ピロミド酸	10	0	0.01	N.D.	含有しないこと
フルメキン	10	0	0.01	N.D.	0.5 以下
フロルフエニコール	10	0	0.01	N.D.	0.2 以下
マルボフロキサシン	10	0	0.01	N.D.	0.05 以下
【内寄生虫用剤】					
フルベンダゾール	10	0	0.002	N.D.	0.010 以下
豚肉(脂肪)					
【内寄生虫用剤】					
イベルメクチン	10	0	0.005	N.D.	0.020 以下
エプリノメクチン	10	0	0.005	N.D.	0.01 以下
モキシデクチン	10	0	0.005	N.D.	0.01 以下

単位 : ppm N.D. : 不検出

【 微量汚染物担当 】

平成20年度 屋内プールの水質実態調査

横浜市18区内の屋内プールにおける衛生管理状況の把握を目的として、屋内プールの水質実態調査を行いました。

1 対象施設及び試料

(1)対象施設:屋内プール87施設

(2)採水日:平成20年6月17日から10月29日

(3)試料:大プール101面*¹、中プール1面*²、小プール39面*³、
その他のプール(ダイビング2面、スライダー1面、流水1面)4面*⁴、
ジャグジー51面の計196面

*1 理化学検査は1面1試料、細菌検査は1面の中央及び

対角線両端の3試料を(一部中央のみ)採水

*2 理化学検査は1面1試料、細菌検査は1面2試料を採水

*3 理化学検査は1面1試料、細菌検査は1面1試料を採水

*4 規模に応じて採水



2 検査項目

(1) 福祉保健センター現場検査項目:遊離残留塩素濃度(以下残留塩素)、pH、水温*⁵

(2) 衛生研究所検査項目:過マンガン酸カリウム消費量、濁度、一般細菌、大腸菌群

*5 水質基準に該当しない参考項目

3 検査方法

厚生労働省通知「遊泳用プールの衛生基準について」に定める方法に準じました。

4 検査結果

検査結果を表に示しました。水質基準に適合しない試料は計77面(大プール34面、中プール1面、小プール11面、その他のプール1面、ジャグジー30面)でした。基準不適合項目と延べ面数は、残留塩素が71面、一般細菌が9面、大腸菌群が4面、過マンガン酸カリウム消費量が7面でした。pH、濁度については基準に適合していました。遊離残留塩素濃度は0.4mg/L未満が計24面(大プール15面、中プール1面、小プール3面、ジャグジー5面)の12.2%で、1.0mg/L超が計47面(大プール18面、小プール8面、その他のプール1面、ジャグジー20面)の23.9%で、望ましい範囲(0.4mg/L以上1.0mg/L以下)にあったのは計125面の63.8%でした。約36%のプールは残留塩素濃度の調節が適当ではないことが分かりました。一般細菌が200cfu/mL超を示した9面のうち、6面は残留塩素濃度が0.4mg/L未満で基準に達していませんでした。残る3面は基準に達しており、残留塩素濃度は0.7、1.0、1.5mg/Lでした。しかし、一般細菌についてはそれぞれ540、210、390cfu/mL検出されています。この3面で検出された残留塩素については、遊離残留塩素か結合塩素かの精査が引き続き必要と考えられました。

表 屋内プール水質検査結果

屋内プール	大	中	小* ⁶	その他	ジャグジー* ⁶	水質基準
試料数	101	1	39	4	51	
水質基準不適合試料数	34	1	11	1	30	
検査項目	基準不適合面数					
遊離残留塩素	33	1	11	1	25	0.4mg/L以上(1.0mg/L以下が望ましい)
一般細菌	4	0	1	0	4	200cfu/mL以下であること
大腸菌群	3	0	1	0	0	検出されないこと
pH	0	0	0	0	0	5.8以上8.6以下であること
過マンガン酸カリウム消費量	1	0	0	0	6	12mg/L以下であること
濁度	0	0	0	0	0	2度以下であること

*6 神奈川県条例に基づき、規模の小さい(小およびジャグジー等)プールは水質基準を適応しない場合があります。

【 水質担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 11月

今月のトピックス

RSウイルス感染症、インフルエンザは昨シーズンと同様に早く増加

感染性胃腸炎の集団発生が小学校を中心に多い

百日咳の報告数は昨年より多く、DPT接種歴のある幼児においても発生している

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点：88か所、内科定点：57か所、眼科定点：18か所、性感染症定点：26か所、基幹(病院)定点：3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

平成20年 週 - 月日対照表

第43週	10月20～26日
第44週	10月27～11月2日
第45週	11月03～09日
第46週	11月10～16日
第47週	11月17～23日

平成20年10月20日から平成20年11月23日まで(平成20年第43週から第47週まで。ただし、性感染症については平成20年10月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

全数把握の対象

<腸管出血性大腸菌感染症>

11月の報告数は、27日現在で11例です。うち、10代の5例は集団食中毒事例でした。年齢の内訳は、10歳未満が2例、10代が5例、20代が1例、30代が2例、40代が1例でした。

<レジオネラ症>

11月は27日現在で2例の報告がありました。1月からの報告数は30例(うち29例は肺炎型)となり、現時点で多かった昨年1年間の報告数28例を上回っています。

全国でも、第47週までの累計は809例と、すでに昨年の報告数665例を大きく上回っています。(表参照)

レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年～2008年47週)

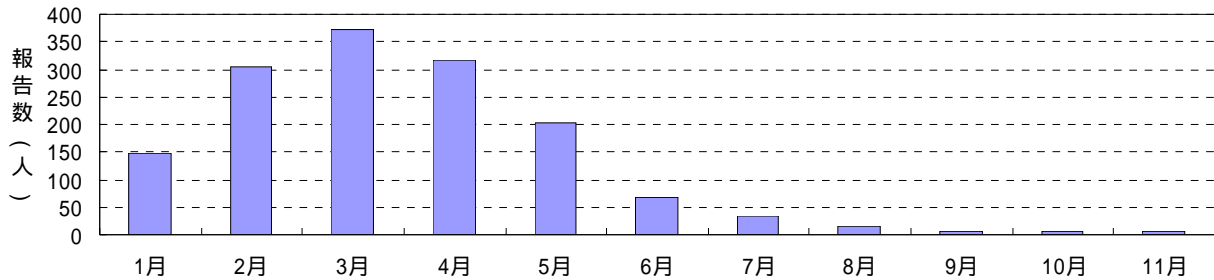
	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全国	154	86	167	146	161	281	514	665	809
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	43	53
横浜市(再掲)	0	0	3	2	1	8	7	28	30

<麻疹>

1月から感染症法の5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

横浜市では、11月27日までの累計報告数は1479例で、全国の報告数10942例の13.5%です。年齢別では、10代(50.6%)が多く、予防接種前の0歳(5.9%)にも多く発症しています。また、全体の48.4%が予防接種未接種でした。

麻疹月別報告数



2012年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に早めに接種していただくことが重要です。

横浜市の詳細については、「横浜市における麻疹患者届出状況(2008年)」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

定点把握の対象

<インフルエンザ>

第40週に今シーズン初発のA型インフルエンザの報告があり、第41週にはB型インフルエンザの初発の報告がありました。初発の報告は、過去6年間で最も流行開始が早かった昨年と同時期です。

これまでに、西、中、南以外の15区から報告があり、区によってはすでに流行開始の目安となる定点あたり「1.0」を越えています。市全体の第47週の定点あたり報告数は0.49でした。これから流行期に入っていくと思われるので注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.43、川崎市は0.13、全国は0.56でした。

横浜市では、高齢者の方がインフルエンザ予防接種を受ける場合、接種費用の助成を行っています。

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ_yobou.html

<RSウイルス感染症>

例年冬季に流行が見られますが、今年は立ち上がり早く、第37週から増加の兆しが見られ、第47週は定点あたり1.02と過去のピーク時より高い値となりました。行政区別では磯子区(8.75)からの報告が目立ちます。今後も増加の可能性がありますので動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は0.60、川崎市は0.45でした。全国は0.99と高い値です。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

今シーズンは過去6年間で最も高い値で推移しています。第47週は定点あたり1.44でした。行政区別では港北区(8.33)が高く、次いで緑区(3.75)、磯子区(2.25)、栄区(2.00)となっています。今後の動向に注意が必要です。神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.63、川崎市は2.06、全国は1.79でした。

<感染性胃腸炎>

第43週から増加の兆しが見られ、第47週の定点あたり報告数は7.33でした。流行の大きかった2006年ほどではありませんが、昨年と同じくらいの値を推移しています。今後は流行期に入っていくと思われるので動向に注意が必要です。行政区別では港北区(13.83)、戸塚区(12.17)、緑区(12.00)、港南区(10.40)、中区(10.33)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は10.41、川崎市は13.76と、どちらも横浜市より高い値です。全国は6.72でした。

集団発生が小学校を中心に報告されています。手洗い、うがいの励行など、予防の啓発に努めていくことも重要と思われます。

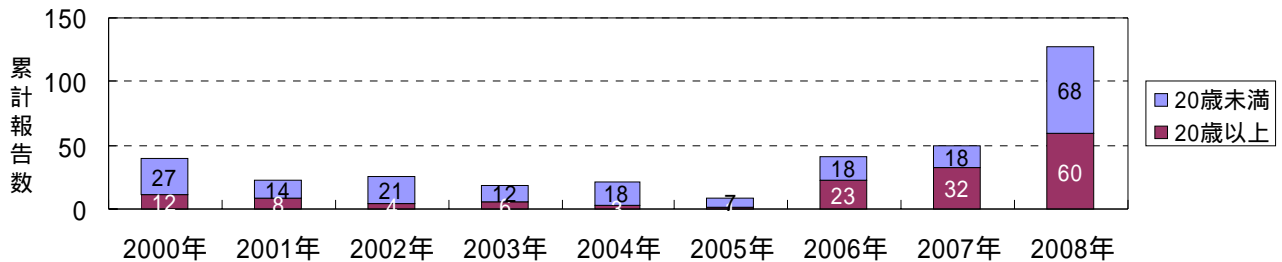
<手足口病>

第30週に定点あたり4.06とピークを迎え、その後しばらく横ばい状態が続いていましたが、第47週は定点あたり0.72と減少しています。

<百日咳>

第47週は3例の報告がありました。やや治まってきていますが、第45週には20例の報告がありました。港南区からの報告が多く見られます。1月からの報告数は128例となり、現時点ですでに昨年の報告数50例を大きく上回っています。成人とともに、DPT接種歴のある幼児の報告も見られており、今後注意が必要です。

百日咳の累計報告数の年別推移(2000年～2008年第47週)



<性感染症>

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

10月は、9月に比べて全体としては横ばいです。しかし、19歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で1例、性器ヘルペスウイルス感染症で1例、淋菌感染症で2例、女性は性器クラミジア感染症で5例、性器ヘルペスウイルス感染症で1例と、8月に引き続きやや多い傾向が続いています。

【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から

<ウイルス検査>

2008年11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点は27件(鼻咽頭ぬぐい液)、基幹定点は9件(髄液4件、咽頭ぬぐい液2件、便、直腸ぬぐい液、血清各1件)でした。患者の臨床診断名別内訳は、小児科定点は上気道炎11人、下気道炎10人、手足口病、胃腸炎各3人、基幹定点は、髄膜炎、けいれん重積各2人、脳炎疑い1人でした。

12月10日現在、小児科定点の手足口病患者3人のうち2人からコクサッキーウイルスA16型、上気道炎患者1人からアデノウイルス、基幹定点のけいれん重積患者1名の咽頭ぬぐい液と便からアデノウイルス2型、髄膜炎患者1名の髄液と直腸ぬぐい液からコクサッキーウイルスB3型が分離されています。これ以外にPCR検査では、小児科定点の手足口病患者で、ウイルスが分離されていない1名からコクサッキーウイルスA16型、また、コクサッキーウイルスA16型が分離された2名のうち1名からRSウイルスの遺伝子が検出されました。このほか、小児科定点の上気道炎患者5人と下気道炎患者6人からRSウイルス、下気道炎患者1人からインフルエンザウイルスAH3型、下気道炎患者1人からRSウイルスとインフルエンザウイルスAH3型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

<細菌検査>

11月の感染性胃腸炎関係の受付は6菌株で病原性大腸菌が1件検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は2件でA群溶血性レンサ球菌が2件検出されました。また、髄膜炎の検体1件と百日咳の検体が3件ありましたが、いずれも検出されませんでした。

感染症発生動向調査における病原体検査11月

感染性胃腸炎 2008年11月

検査年月	11月		2008年1～11月	
	小児科	基幹	小児科	基幹
定点の区別				
件数		6		78
菌種名				
サルモネラ				
腸管病原性大腸菌		1		3
毒素原性大腸菌				2
組織侵入性大腸菌				
腸管出血性大腸菌				3
腸管凝集性大腸菌				
黄色ブドウ球菌				
カンピロバクター				
不検出		5		70

呼吸器感染症等 2008年11月

検査年月	11月		2008年1～11月	
	小児科	基幹	小児科	基幹
定点の区別				
件数	6		50	1
菌種名				
A群溶血性レンサ球菌	T1		1	
	T3	1	9	
	T4	1	9	
	T12		8	
	T13		1	
	T25		5	
	T28		3	
	T B3264		1	
	T 型別不能			
B群溶血性レンサ球菌				
G群溶血性レンサ球菌			1	
黄色ブドウ球菌				
髄膜炎菌				1
インフルエンザ菌				
不検出		4	12	0

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

[細菌担当]

由来別病原菌検出状況 11月

2008年11月

検体の種類	分離菌株数					
	ヒト		環境		食品	
	11月	2008年1-11月	11月	2008年1-11月	11月	2008年1-11月
コレラ O - 1		1				
O - 1以外		1		4		
赤痢菌 A						
B		3				
C		1				
D	1	9				
その他						
チフス菌		4				
パラチフスA菌		5				
その他のサルモネラ						
O4群		1				
O7群		6				
O8群						
O9群		2				
O3, 10群						
その他						
腸管病原性大腸菌	1	3				
毒素原性大腸菌		11				
組織侵入性大腸菌						
腸管出血性大腸菌	14	53				1
腸管凝集性大腸菌		1				
腸炎ビブリオ		2				
黄色ブドウ球菌		60				15
カンピロバクター	4 ^{*1}	58			6 ^{*1}	10
ウェルシュ菌		11				1
A群溶血性レンサ球菌	2	36				
B群溶血性レンサ球菌						
レジオネラ	1	4				
セレウス菌		4				7
その他	1 ^{*2}	2				
取り扱い件数	130				128	

*1 C. jejuni による食中毒事例分離株

*2 バンコマイシン耐性腸球菌

【細菌担当】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 20年度10月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 20年度11月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

2008年4月、市民にわかりやすくかつ迅速な情報提供を目指して、リニューアルを行いました。

今回は、2008年10月のアクセス件数、アクセス順位及び2008年11月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (2008年10月)

2008年10月の総アクセス数は、136,797件でした。主な内訳は、感染症58.0%、食品衛生17.8%、保健情報7.3%、検査情報月報2.8%、生活環境衛生2.1%、薬事1.9%でした。

(2) アクセス順位 (2008年10月)

10月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、2位が「百日咳について」でした。

3位に「ライノウイルスについて」が入りました。

ライノウイルスは、鼻やのどの上気道に炎症をおこし、特に春(5 - 7月)と秋(9 - 11月)の季節の変わり目に多い風邪の原因ウイルスといわれています。

6か月以上の乳幼児での感染が主ですが、大人もかかり2分の1から3分の1は、ライノウイルスが原因とされています。また、RSウイルス感染症の流行と関係があるとも言われており、2歳以下の喘鳴の原因としてRSウイルスが多く、2～16歳の喘鳴はライノウイルスが原因のことがあります。

2008年の横浜市のRSウイルス感染症の流行は、患者報告数の立ち上がりの時期が例年と比べて早く、37週(9/8～9/14)から報告が増え、定点あたりで昨年の3.5倍、48週(11/24～11/30)16倍と、非常に多い状態です。

国立感染症情報センターの報告でも、全国的に立ち上がりはやく、2008年第41週(10/6～10/12)からの報告が多く、今後の発生動向にはより一層の注意が必要であると注意を呼びかけています。

表1 2008年10月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	11,124
2	百日咳について	4,985
3	ライノウイルスについて	3,766
4	インフルエンザワクチンについて	3,604
5	電子パンフレット(MRSA)	2,929
6	英字略語集(ABC順)	2,149
7	ちょっと専門的なデータシート	1,789
8	電子パンフレット(レジオネラ症を防止するために)	1,428
9	感染症発生状況	1,410
10	大麻(マリファナ)について	1,336

データ提供:行政運営調整局IT活用推進課

(3) 電子メールによる問い合わせ (2008年11月)

2008年11月にホームページのお問合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、3件でした(表2)。

表2 2008年11月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
大人の百日咳について	1	衛生研究所
半生の「とりわさ」のレシピについて	1	衛生研究所
次亜塩素酸水について	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2008年11月)

2008年11月に追加・更新した主な記事は、11件でした(表3)。

表3 2008年11月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
11月5日	RSウイルスによる気道感染症およびパリピズマブ(シナジス)について	更新
11月5日	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	追加
11月11日	感染症に気をつけよう(11月号)	追加
11月12日	ウエストナイルウイルス(蚊)の検査結果	更新
11月17日	横浜市感染症発生動向調査事業概要 平成18年(2006年)	追加
11月18日	横浜市人口動態統計資料(平成19年)	追加
11月21日	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	更新
11月26日	横浜市における麻しん患者届出状況(2008年)	更新
11月27日	ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について	更新
11月27日	英字略語集(ABC順)	更新
11月28日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新

[感染症・疫学情報課]